

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：令和元～令和6年度)

実施機関：北海道大学（総括責任者：寶金 清博）

共同実施機関：室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、日東電工株式会社、株式会社アミノアップ

取組の概要

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークを設置し、①研究継続のための両立支援の拡充等研究環境のさらなる改善や意識改革、②リーダー育成のための共同研究助成や異分野融合の推進、③上位職女性研究者へのシャドウイング研修等を通じた自立と飛躍のためのキャリア開発、④経営陣との対話等によるマネジメント力の向上、⑤上位職・管理職登用促進に向けた組織の意識改革、⑥博士のキャリアマネジメント促進と女性研究者のすそ野拡大に取り組む。上記①～⑥に連携機関が協働して取組むことで、北海道の研究を活性化し、ダイバーシティ推進のための変革をリードするイノベーションコア人材を育成する。また、広大な北海道を牽引するために、各機関の特徴と強みを活かし、北海道の各地域（室蘭・帯広・北見）や分野（バイオ産業、産学連携）にダイバーシティ研究環境を波及させ、多様な人材が様々な場で活躍できる北海道地域に向けてさらなる進化を目指す。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	b	a	b	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

北海道内の広範な地域に立地する4大学と2企業が連携し、オンラインツールを活用した連携の基盤となる「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」を構築し、課題やその改善策を共有することにより、女性研究者・技術者の活躍を促進する研究環境の実現に取り組んでいることは評価できる。本事業の実施を通して、連携する6機関においては女性研究者の活躍促進に向けた機運が高まり、代表機関はもとより、女性研究者が少ない工学系、畜産学系分野を主体とする3大学において女性教員の積極的な採用が進められており、女性教員在職比率の将来的な上昇が期待できる。今後は、代表機関のリーダーシップの下、現時点で未達の女性教員在職比率、若手教員採用比率、女性研究員の上位職昇進に係る目標の達成に向けて、実効性の高いポジティブ・アクションを策定し、確実に実施することを期待する。また、「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」を今後さらに拡充し、北海道地域への波及効果をさらに高めることを期待する。

- ・ **目標達成度**：5共同実施機関においては、女性教員在職比率、女性教員採用比率等の目標が概ね達成されており評価できる。しかしながら、代表機関においては、女性教員数及び女性教員在職比率ともに目標を大きく下回っている。新執行部が新たに策定した長期的な人事計画に基

づき、目標達成に向け女性教員の採用、上位職への昇任を促進することを期待する。

- **取組**：オンラインツールを活用した「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」を構築し、コロナ禍にあっても6機関が連携して取組を進めた。特に、「異分野 meetup」等の研究交流会には6機関から多くの女性研究者が参加し、そこから新たな共同研究が生まれた。当該共同研究へ研究支援が行われており、女性研究リーダー育成の取組として評価できる。連携機関全体として意識改革が進み、連携する3大学で教員の女性限定公募が実施されたことは評価できる。
- **取組の成果**：連携機関の女性研究者による21件の共同研究に対し研究費支援が進められ、当該共同研究の研究代表となった女性研究者の研究業績が向上したことは評価できる。また、女性教員在職比率を増加させるため、連携する3大学で教員の女性限定公募を実施し、一定の成果を挙げたことは評価できる。しかしながら、代表機関をはじめとして所期の目標を達成できていない機関が多く、取組の成果は限定的であり、なお一層の取組の推進が求められる。また、北海道地域への波及効果をさらに高めていくことを期待する。
- **実施体制**：地理的に離れている連携機関の間で、オンラインツールを十分に活用し会議等を開催し、連携体制を有効に機能させたことは評価できる。また、代表機関、共同実施機関のそれぞれにおいて機関の長が積極的に本事業の推進に関わり、女性限定公募の実施、学長裁量経費による研究支援員配置等、迅速かつ柔軟な対応を行った点は評価できる。
- **今後の進め方**：補助期間終了後も代表機関に事務局を設置し、代表機関のリーダーシップの下、事業を継続し産官学共同プロジェクトへと発展させ、北海道地域全体への波及効果を目指す計画となっていることは評価できる。また、代表機関における「総合的な人事計画」により、女性教員の上位職昇任を推進するポジティブ・アクション制度を構築する計画は評価できる。自然科学系分野の女性上位職教員が増加することを期待する。